

資料紹介

「選別鹵獲文書」について

森 善 宣

On “the Captured Korean Documents (Selected)”

Yoshinobu MORI

はじめに

昨年度から科学研究費補助金を拝領した関係で、昨年度の中国に続き本年度は米国立公文書館(The National Archives and Records Administration: NARA)の別館にあたる米国アーカイヴスⅡ(The National Archives Ⅱ)【以下“NAⅡ”と略記】を訪問し、3週間という短期間ながらも「選別鹵獲文書」を調査する機会を得た。ここで言う「選別鹵獲文書」とは、朝鮮戦争中に米軍はじめ国連軍が主に北朝鮮地域で捕獲して米本国へ輸送後に保管した記録、資料、写真などを総称する膨大な量の「鹵獲文書(the Captured Korean Documents)」のうち、「軍事的に価値があると判断される文献」の一群を指す⁽¹⁾。

同文書については既に、韓国翰林大学校客員教授の方善柱氏により長年にわたる詳細な調査研究が行われ、その内容はほぼ明らかになっている。ところが、方善柱氏の話に従えば、未だ日本人として「選別鹵獲文書」を調査研究した事例がほとんどなく、2005年9月に筆者が訪問して同文書に当たったのが初めてであろうという⁽²⁾。つまり、日本では「選別鹵獲文書」の存在は知られていたとしても、実際にその内容やアクセスについては広く知られているとは考えにくいのである。

そこで、本稿は日本での朝鮮戦争研究の現状に鑑み、「朝鮮戦争の総合的な研究」と題した科学研究費補助金の認定課題に沿って「選別鹵獲文書」を紹介しようとするものである。冒頭に述べたとおり、筆者は未だ「選別鹵獲文書」の一部だけを調査したに過ぎないが、その一次資料としての価値を知るには十分な調査結果を得た。なお、筆者は本年2月下旬から3月下旬にかけて再びNAⅡを訪問して「選別鹵獲文書」の全容に迫る計画である。

ところで、筆者は今を去る1993年3月から8月まで、当時ワシントンDC近郊のスートランド(Suitland)にあった「米国立公文書館付属国立記録保管所(NARA, National Record Centre)」で約半年間にわたり「鹵獲文書」を調査、収集したことがある。この「鹵獲文書」がさまざまな経緯から現在のNAⅡへと移管された事実はネット上のサイトを通じて早くから知っていたものの、12年の時空を超えてNAⅡを訪問したのは今回が初めてだった。それで、今回の調査旅行で辿り着くのに苦労したNAⅡの位置とアクセスから最初に述べてみたい。以下に本稿では、NAⅡの所在とアクセス、同文書を含む「鹵獲文書」所蔵に至る経緯、「選別鹵獲文書」の概要と特徴、そして同文書の研究意義について紹介する。

1. 米国アーカイヴスⅡの所在とアクセス

「選別鹵獲文書」はじめ、ほとんどの「鹵獲文書」が所蔵されているNAⅡは、米国はメリーランド州のカレッジ・パーク・シティ (College Park City) にある。このためNAⅡはワシントンDC内にある本館と区別するため“The National Archives at College Park”と言われている。メリーランド州立大学と隣接する敷地内にあるNAⅡは、米国立公文書館が刊行したパンフレットによると次の住所にある；8601 Adelphi Road, College Park, Maryland 20740 USA

また、NAⅡに常設された訪問者向けに案内をしてくれる部署 (Customer Service Center) の電話番号とファクス番号は、次のとおりである；301-837-2000/1-866-272-6272 (電話番号)、301-837-0483 (ファクス番号)。このうち電話番号の后者は、受信者であるNAⅡが電話料金を負担する (Toll Free) 回線である⁽³⁾。

NAⅡがワシントンDC近郊にあるとは言え、そこへのアクセスは自動車がない場合、米国立公文書館が1時間間隔で運行する無料のマイクロ・バスを本館背後のバス停からNAⅡ正門前まで利用するか、NAⅡ前まで運行している市街バスに乗るしかない。ワシントンDC内に宿所があればマイクロ・バスが便利そうだが、片道45分ほど時間がかかる。筆者は今回、市街バスで10分の距離にあるグリーンベルト通り (Greenbelt Road) 沿いのモートルに滞在して、近郊のバス停からNAⅡに通った。メリーランドは田舎であり、食糧の買い出しやコイン・ランドリーでの洗濯などに市街バスを利用すると、正直なかなか大変な生活だった。ちなみに当該モートルは、一週間300ドルで宿泊できた。

NAⅡの開館日程は原則的に米国の公休日を除く毎日であるが、実際に利用できる時間は曜日により異なっている。すなわち、開館時間は午前8時45分と同一だが、月曜日と水曜日は午後5時まで、火曜日、水曜日そして金曜日は午後9時まで、さらに土曜日は午後4時45分までに館外へ退去せねばならない。なお、土曜日は資料を請求できないことになっているが、前日に調査し終われなかった文献は公休日を除いて当日から3日間は引き続いて保管してくれ、土曜日でも調査できる。膨大な資料を調査するには不可欠な制度である。

この膨大な資料を保管するNAⅡの内部は巨大な倉庫だと言え、各階ごとにアクセスできる資料が大別されている。1階は受付、食堂、スタッフの部屋が配置されている。2階で原文記録 (Textual Records)、3階では地図記録、航空写真が閲覧でき、図書館も配置されている。4階が動画、音響記録ならびにマイクロ・フィルム、5階はスチール写真 (Still Photographs)、そして6階に電子記録を見開きすることができる。研究者は各階へ自由に移動して資料を閲覧したり聴取したりできるものの、6階だけは事前にアポイントメントが必要とされている。

なお、地階にはロッカー・ルームと会議室があり、研究者は最初の来訪時に受付で登録を済ませた後、荷物をこのロッカーに入れるよう求められる。2日目以降は登録証を提示して入館後、荷物を地階に置いて各階へ上り、本格的な調査に着手するのである。

筆者は「選別鹵獲文書」の分類が誤っていた関係で、直接NAⅡの内部へ調査介助員 (Research Assistants) と共に数回はいる機会を得た。その時に見聞したところでは、原文記録を保管する3階フロアは、それぞれに資料が入った箱 (Box) 8つを各段に並べた10段組の高い書架をいくつも連結して、それら書架をローラー上で電動により動かす最新式の設備となっている。もちろん、資料を保管する各フロアには調査介助員と一緒にしか入退去できないが、要請すると誰でもそれを見聞して、ほしい資料の位置や請求番号を確認させてくれる。

資料の請求や取り扱いについては、筆者が「選別鹵獲文書」に限り調査した関係で、2階で閲覧できる原文記録に関してのみ確実に述べるができる。2階フロアの閲覧室に入ると登録証の提示により入室

がチェックされ、その後に資料を請求、カートで出してもらう。カートは1段に8箱が載る3段組みの台車で、請求の時に“Full Cart”と付記しておくで最初の請求資料から台車に載るだけ資料を運んでくれる。

これら資料を4人が座る比較的に大きな机で閲覧できるし、必要な部分はコピーもとれる。便利なことには各機の中央に電源のコンセントが付いているため、私有のコピー機器を持ち込んで複写もできるし、また携帯するスキャナーで資料を読み込み、その場でパソコンに入力することも可能である。ただし、資料の保管という観点から資料の取り扱いにはいくつかの守るべき事項が定められている。例えば、ボールペンの持ち込みが禁止され、書き込みにはNAⅡが提供する鉛筆と紙を使用せねばならないとか、各箱から資料を取り出す際にはひとつの資料だけに限って机の上で閲覧する、などだ。

筆者は、巡回するスタッフから資料の取り扱いを注意されることもあった。だが、そもそも「鹵獲文書」全体がかなり傷んでいる上、少なからぬ先達の調査のためか、入っているはずの箱にその資料がない場合もしばしばだった。ここから、次に「鹵獲文書」がNAⅡに所蔵されるに至る経緯を簡単に紹介する。

2. 「鹵獲文書」所蔵の経緯

朝鮮戦争に介入した米軍はじめ国連軍は、主に北朝鮮地域で膨大な記録、資料、写真などの文献を捕獲した。これら「鹵獲文書」と通称される文献を米極東軍司令部軍事情報局所属の翻訳通訳部（ATIS）では「記録群242（Record Group 242：RG242）」とした上で、軍事的に利用価値が高いか低いかで分類し、これらを別グループとして米本国に発送した。すなわち、全文献に2001から2013までの発送通知番号である“Shipping Advice Number”（SA#）をふり、このうち軍事的な利用価値が低い文献を2005から2013とした一方、軍事的な利用価値が高いと判断された文献は2001から2004までに選別して発送したとされる⁴⁾。

このうち前者は、朝鮮半島が日本による植民地統治から解放された後の状況を研究するには不可欠な資料として、1980年代にはカミングス（Bruce Cumings）の研究により広く知られるようになり、数多くの研究者が国立記録保管所を訪ねた。筆者もその一人だったが、後者についてはその存在が長く不明であった。後者は、部分的に方善柱氏による資料公開請求の甲斐もあって1990年初めに公開され、本格的に調査され始めたのである。

そして、これら2001から2013までの資料は、カレッジ・パーク・シティにNAⅡが1994年に建設されることになると「現代軍事記録（Modern Military Records）」と命名される記録群の一部として、その大部分がストランドから移管された。「現代軍事記録」には第二次世界大戦と前後して日本やドイツなどで米軍が捕獲した文献など、極めて興味深い記録が莫大に所蔵されている。移管に当たりNARAでは2001から2004までに選別された「鹵獲文書」に200001に始まる通番をふっただけでなく、「鹵獲文書」全体の所蔵先をSA#形式とは異なる“Entry Number（ENTRY#）”の形式で体系化したのである。このため今回の調査では資料の請求に際していくつかの困難や誤解を伴ったが、ボイラン（Richard Boylan）やマクドナルド（Lawrence H. McDonald）両氏はじめ調査介助員たちの温かい支援を受けて、筆者も何とかその概要をつかむことに成功した。次に、この「選別鹵獲文書」の概要と特徴を紹介しよう。

3. 「選別鹵獲文書」の概要と特徴

「鹵獲文書」は、前述のようにENTRY#形式により再分類された。次に示すのは、NARAで作成した分類表における冒頭の部分である。この後に箱の個数や様態などについての記述が続くが、ここでは省略した。なお、右端のカタカナ表記は説明の便宜上つけたものである。

RG242

ENTRY#: 299

TITLE: Captured Korean Documents

NA II: 190 : 16/07/05 — 16/07/06 container #'s 1-14 (イ)

これら分類表の各記号は、資料を窓口に請求する際に提出する「照会業務伝票 (Reference Service Slip)」で示す記載事項にそれぞれ対応している。上に書いた最初の記号で対応関係を示すと“NA II” = “STACK AREA”、“16” = “ROW”、“07” = “COMPARTMENT”、“05” = “SHELF”、“BOX” = “CONTAINER#’s”である。本稿の末尾にボイラン氏が書いてくれた照会業務伝票を掲げておくので、参考にしてほしい。以下、続けて全体を示す。

NA II: 190 : 16/08/01 — 16/34/02 container #'s 15-1299 (ロ)

NA II: 190 : B/09/02 — B/10/03 container #'s 57-1058 (ハ)

NA II: 190 : B/21/05 — B/22/07 container #'s 1132-1281 (ニ)

ENTRY#: 300

TITLE: Russian Materials Captured in Pyong Yang, North Korean, in November, 1950

NA II: 190 : 17/03/02 — 17/25/05 container #'s 11-1123 (ホ)

ENTRY#: 300A

TITLE: Collection of Records Seized in Korean; 1921-1950; Subject Index

NA II: 190 : 16/34/02 — 16/34/02 container# 's 12-13 (ヘ)

ENTRY#: 300B

TITLE: Allied Translations; Enemy Documents

NA II: 190 : 18/05/02 — 18/05/04 container #'s 1-13 (ト)

ENTRY#: 300C

TITLE: Captured Enemy Documents (North Korean Documents)

NA II: 190 : 16/34/02 — 17/02/06 container #'s 17-185 (チ)

ENTRY#: 300D

TITLE: Translation of Enemy Documents—North Korean Forces

NA II: 190 : 17/02/06 — 17/02/07 container #'s 1-9 (リ)

ENTRY#: 300E

TITLE: Accessioning Paperwork for Seized Korean Documents (Shipping)

NA II: 190 : 17/02/07 — 17/03/02 container #'s 1-11 (ヌ)

ENTRY#: 300F

TITLE: Korean Records Collection; Security Classified Records

NA II: 190 : 17/03/02 — 17/03/02 container #'s 51—52 (ル)

ENTRY#: 300G

TITLE: Selected Records, Koean; Translation of Enemy Documents, 1952

NA II: 190 : 17/03/02 — 17/03/02 container #'s 1—1 (ヲ)

ENTRY#: 300H

TITLE: Bulletin; Enemy Documents

NA II: 999999 : 999/999/999—999/999/999 container #'s 14—16 (ワ)

INDEX MICROFILM ROLL 77—1212 in Microfilm Reading Room (カ)

以上の分類表に従い、いくつかの具体的な資料を挙げつつ、「選別鹵獲文書」の概要を説明したい。まず、(イ)は日本側の文書であり、植民地統治の終焉と前後する朝鮮総督府の交信記録に始まり、のちには大部分が旧満州地域の地図で構成されている。興味深いことは、交信記録の中に特攻の父として知られる大西龍治郎の割腹自決についての報告が極秘電文として収められていることであろう。

次に、(ロ)は旧来から知られていた「鹵獲文書」であり、実際にはB/21/07で終了する(ニ)の残余となるBOX. 1135以降の資料もここに含まれている。この索引が(カ)で、NA IIの4階にマイクロ・フィルムとして所蔵されていて、申請するとマイクロ・リーダーにより閲覧できる。筆者は既にその大略を調査、収集した関係で、繰り返して「鹵獲文書」に当たることはしなかったが、精読することにより新しい発見を得る可能性は高い。

第三に(ハ)および(ニ)は大型の箱に入ったポスターや写真の類であり、例えばBOX. 1133やBOX. 1134はスターリン (Joseph V. Stalin) の誕生70周年と前後して北朝鮮各地で張り出されたスターリン称賛の巨大なポスターである。その大きさから我々は、いかに当時の北朝鮮が旧ソ連の影響を深く受けていたか、を知ることができるだろう。現在の北朝鮮でも依然としてスターリン主義的な色彩が濃厚なのは、その指導者たちの多くが少年期にかかる影響を強く受けていたからではないか、と筆者が推測する根拠である。

第四に(ホ)は表題どおりロシア文献であるが、ボイラン氏の言によるとロシア資料には見るべき内容が余らないという⁶⁵⁾。だが、ロシア文献の英訳を集めた(ト)には旧ソ連軍の軍事顧問団が作成した南朝鮮地域への侵攻計画が収められており (BOX. 1, 200686)、今後の詳細な調査を通じて見るべき内容のある資料が発見される可能性は否定できない。なお、(ヘ)は「鹵獲文書」中のロシア文献につけられた、かつての図書館に常置されていたような事項索引で、辞典、文化、科学、政治、軍事などに大別されている。

これと同様に(ヌ)も索引だが、ここには箱ごとにBOX. 1から10までSA#との対応関係が示されている。例えば、BOX. 9はSA#2013&10181を示しているが、SA#10181とは日本の植民地統治時代の資料なのである。おもしろいことにロシア側資料について記したBOX. 10にある文書には、次のような憂慮が表明されていた。「朝鮮で捕獲された文献の多く、特にソ連文献は、平壤にあるソ連領事館の建物で発見された。この事実は、もしも公表されるならば、米国政府に何らかの混乱を引き起こすかも知れない。」⁶⁶⁾

第五に(リ)には、朝鮮語・ロシア語・中国語の資料の英訳が収められている。例えば、英訳資料“Performance Charts for 2nd Flotilla (undated)” (BOX. 2, Item No. 18) は、(チ)に見る魚雷艇に関する朝鮮語

資料 (BOX. 17, 200974~200976) である。この (リ) の一部を含めて大切と考えられた英訳資料を集めたのが (ル) だ。(ル) では51と52の二つの箱があるが、それらの箱に収められた英訳資料の翻訳元が複数あるのは、ATIS傘下で各機関が協力した有様を伝えている。

同様に (ヲ) も「敵側文書 (Enemy Documents)」を英訳したものであるが、残念ながら (ワ) についてと同様、今回は時間的な制約から資料請求できず、未だ調査に至っていない。

以上のように「選別鹵獲文書」は、日本語、朝鮮語、ロシア語、中国語の各言語で記された各種の文献が混在する、余り他に例を見ない資料群である。このうち「選別鹵獲文書」とは (チ) を主に指す。NARAが作成した前ページの分類表では開始がBOX. 17からだが、これは誤植で実際にはBOX. 1から請求することができる。ただし、方善柱氏も指摘しているように通番200042がふられた資料からしか見ることはできず、その前の200001~200041は行方不明である。

「選別鹵獲文書」の内容については方善柱氏の紹介に詳しいので、ここでは次の3点を指摘するに止めたい。ひとつは中国側資料によると、「朝鮮民族独立同盟北満特別工作委員会」による「独立同盟成立経過報告」には「和許憲氏連絡朝鮮共産主義運動的領導者鄭伯朴憲永等同志對朝鮮国内運動及海外運動緊密的連絡統一戦（線）政策之下開始活動」とあり、「独立同盟内中国共産党的支部書記同時党団の責任者崔昌益同志有密的關係」だったと書く (BOX. 30, 201238)。おそらく朴憲永・許憲・許貞珣・崔昌益のラインで当時から中間で独立運動の連携が計られていたのは間違いなく、ここから推測して解放後も同様なラインが「活動」していた状況を考察する課題が提起されるはずである。

二つには、祖国統一民主主義戦線（祖国民線）結成後の社会的な雰囲気について朝鮮側資料『施設』1949年7月号は、その表紙裏の「標語」で次のように伝えている。「1. 米軍即時撤去、国土完整、祖国統一独立のための最も切迫した救国対策である『祖国統一民主主義戦線』結成万歳！ 2. 朝鮮民主主義人民共和国万歳！ 3. 抗日武装遊撃運動の民族的英雄であり、共和国内閣首相であられる金日成將軍万歳！」 (BOX. 39, 241446)。

このように朝鮮戦争に向かって軍事国家化したと一般に考えられてきた北朝鮮で、実際には祖国民戦結成が宣伝されたところからは、それが提示した「平和的統一方策」が広く民衆に受け入れられた様子がうかがえる。つまり、北朝鮮の民衆が南北統一のために全面的な内戦を望んでいたというのではなく、その指導者たちが戦争を主導して開始した事実が明らかになるのである。この事実は、南北朝鮮間の「和解と協力」を支える強力な根拠となり、また日朝協議の前提として勘案されるべきであろう。当時から現在まで北朝鮮の住民は独裁体制の犠牲者でこそあれ、積極的な支持者では決してなかった。

三つに筆者は、金日成が朝鮮労働党中央委員会委員長にいつ就任したかを確認することを目的の一つとしてNAⅡの所蔵資料を調査した。未だその確定的な資料は未入手ながら、彼が1950年8月18日にはその職責に就任していた記事を『闘士新聞』に発見した (BOX. 26, 201200)。おそらく『朝鮮人民報』1950年7月26日に載った「朝鮮労働党ソウル市鉄道局党々員および非党熱誠者大会の決議文」中では金日成の肩書きにそれがないところから (BOX. 82, 200995)、7月27日から8月17日までの間に金日成が委員長の職責を篡奪したのであると思われる。

このように「選別鹵獲文書」は、わずか3週間という期間内にかくも多くの成果をもたらしてくれた。本稿では最後に、同文書を引き続き研究する意義について資料公開の現況と照らし合わせて考察してみたい。

4. 「選別鹵獲文書」の研究意義

前述のとおり筆者は、2004年8月末~10月上旬に中国へ短期留学し、朝鮮戦争関連の中国資料の調査、

収集に携わった。合わせて、元朝鮮人民軍政治委員を務めた匿名希望の人物へのインタビューなどを通じて、数多くの隠された事実を知るに至った。最終的に筆者は、朝鮮戦争前に朝鮮労働党内の中国共産党系列の共産勢力たる延安派と中国共産党指導部との交信記録が明らかにされない限り、朝鮮戦争の開戦決定過程のみならずその展開過程を正しく理解するのは困難だという結論に達したが、部分的なりとも明らかにされつつある証言風の記録などを通じて事実関係は少しずつ明るみに出るだろうと思う。

一方、ロシア側資料に関しては、従来の研究に加えて新しい資料の発掘に基づいた精力的な研究が推進されており、中口関係の中で北朝鮮がどのように両国に認識され対応を受けていたのか、その奥深い真相を明らかにしつつある。とりわけロシア研究で著名な法政大学教授の下斗米伸夫氏による論考は、金日成が中ソ両大国の中で極めて低い評価しか受けていなかった事実を示して興味深い⁽⁷⁾。

このような中口両資料の新公開という流れの中にあって、「選別鹵獲文書」は果たして研究される意義があるのだろうか。これについて筆者は、北朝鮮の内部資料をどう評価するかに関わる問題として、この問いを再設定してみたい。つまり、旧ソ連や中国が構造的な外圧として北朝鮮の政治過程に介入しながら残した資料は、自ずと外勢による記述という限界を持つ。反対に北朝鮮の内部的な対応としての活動を描く資料は、彼らが主体として主観的で、時には恣意的な記述を行うという弊害を随伴しているのである。

「選別鹵獲文書」は、この構造的な外圧と恣意的な内部記述との接点として位置づけられるのではなかろうか。構造と人間という古くも新しいテーマとして換言できるこの問題は「鹵獲文書」全体の中に日本語も含めて朝鮮語、中国語、ロシア語の資料が混在する事実が教えるように、中国系列とロシア系列とが互いに北朝鮮内部で協力と対立の複雑な関係を形成していた事実を想起させる。そして、これこそ当時の北朝鮮の状況が再構成されるに際して政治学的なバランスを伴わしめて、事態に客観的な評価が下されるのを助けるのである。

例えば、中国系列の代表だった金科奉は、確かに朝鮮労働党中央委員会委員長長の職責を旧ソ連の後援なしには何事もなし得なかった金日成に禅譲したとしても、1952年後半に行われた彼の演説中では金日成に何らの敬語も用いていなかった⁽⁸⁾。この事実は一見なんでもないことのように思えるが、両者の政治的な立場を反映しており、金日成が少なくとも同時期までは朝鮮労働党内で「首領」として認知されていた点を実証している。

言うまでもないが、「選別鹵獲文書」から新しい事実が明らかになったり、事実確認ができたりする場合も少なくない。今回の調査で確認できた事実の一つだけ挙げておくと、朴憲永が1953年4月に逮捕された後、外相の代わりに外務副相として新聞紙上で名前を載せられた李東建は、前任の朴東照が約1年半前に戦死したことから就任したのだった⁽⁹⁾。のちに李東建も肅清されたように、北朝鮮では金日成の独裁体制が次第に構築されていった。

おわりに

朝鮮解放から朝鮮戦争後に至る金日成による個人独裁政権の樹立までの研究において「選別鹵獲文書」がロシア、中国などの資料と共に併用されるべきであることは、ここで改めて言う必要がない。特に、中国共産党と外国党との交信記録を所蔵する「中央档案馆」が公開されていない現状では、尚更である。確かに我々は、資料的な価値としてロシアや中国の資料を朝鮮のそれよりも重要視する傾向がある。なぜならば、北朝鮮の資料には早くから偽造が多く、信憑性に欠けるからである。

しかしながら、ロシアや中国の資料は、朝鮮側の資料と照らし合わされて初めて、その真価を発揮するのも事実であろう。この意味で「選別鹵獲文書」は、我々が看過できない研究上の価値を今だに帯びてお

り、朝鮮研究者であれば一度は手に取って検討すべき資料だと言って差し支えない。筆者は来年度はモスクワへ飛び、ロシア側資料の本格的な収集に当たる予定だが、同時に今後も NA II を訪問して、できる限り詳細に「選別鹵獲文書」を収集したい。

最後に、本稿が関係する研究者に少しでも便宜を提供できれば、これに過ぎた研究協力はないと信じる次第である。筆者が思考するところ、資料は万人に公開されるべきであるという NARA の精神を尊重する趣旨で、筆者の所蔵する資料の公開をいとうものではないことを付記しておく。

註

- (1) 方善柱「米國國立公文書館所蔵 RG242内〈選別鹵獲文書〉調査研究」『米國所在韓國史資料調査報告』Ⅲ「所蔵 RG242〈選別鹵獲文書〉外」果川、國史編纂委員會、2002年、2頁。
- (2) 方善柱氏との昼食時の会話、NA II 近くの韓国レストラン「李朝」、2005年10月3日。
- (3) “The National Archives at College Park” ならびに “The National Archives in the Nation's Capital: Information for Researchers” を参照。
- (4) 方善柱、前掲論文、前掲書、1-2頁。
- (5) ボイラン氏との対話から、NA II、2005年10月6日。これに関連して、慶応大学三田キャンパスで開かれた現代韓国朝鮮学会においては和田春樹ならびに田鉉秀の両氏によりモスクワ各地の諸機関に所蔵されたロシア側資料に関する貴重な報告が行われた。和田「北朝鮮研究とソ連・東欧資料」、田鉉秀「해방직후 북한연구와 러시아자료 (解放直後の北朝鮮研究とロシア資料)」を参照。
- (6) “Chief, Security Division ATTN: Chief, SMI Branch Chief, Production Division; Security Classification for Captured Korean Documents” なお、文書の日付は1952年2月13日である。
- (7) 下斗米伸夫「スターリン批判と金日成体制—ソ連大使館資料を中心に」『法学志林』103巻1号（東京、2005年10月）所収、を参照されたい。この論考は下斗米教授が筆者にご恵送くださったものである。
- (8) RG242, SA#2013, BOX. 86, Item. 23.
- (9) 李東建の外務副相としての登場は『労働新聞』1953年3月17日。朴東照の死亡記事は次にある。『民主朝鮮』1951年11月8日。BOX. 1169, Item. 205-208.

REFERENCE SERVICE SLIP						DATE	NO.
NAME OF REQUESTOR				AGE NO. OR ADDRESS			
MORI Yoshinobu				065-226			
UNITS OF SERVICE						SOURCE OF REQUEST (check)	
INFORMATION SERVICE (Number of replies)		RECORDS FURNISHED (Number of items)	TEXTUAL STILL PICTURES, ETC. (Number of pages)	MOTION PICTURES (Number of feet)	SOUND RECORDINGS (Number of feet)	NA Administrative Use	
WRITTEN	ORAL					Agency of Origin	
						Other Government	
						Nongovernment	
REQUEST HANDLED BY							
RG NO.	STACK AREA	ROW	COMPARTMENT	SHELF	OUTCALL NO.		
242	190	16	34	02 →			
RECORD IDENTIFICATION							
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> (E) 300 C CAPTURED KOREAN DOCS </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> Box 17 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> FTLC CHART </div> <div> XXXXXXXXXX </div> </div>							
RECEIVED BY		DATE		RETURNED TO		DATE	
				Mr. Boylan 2/11			
NATIONAL ARCHIVES AND RECORDS ADMINISTRATION				DO NOT REMOVE FROM RECORDS		NA FORM 14001 (11-85)	